

にゅうぜん「まち・ひと・しごと」づくり戦略検証委員会〔第6回委員会〕

日時：令和5年8月30日（水）午前10時から

場所：うるおい館 イベントホール

【委員からの主な意見】

| 委員名 | 内 容 |
|------------------------|--|
| 細田委員 〔アイシン・メタルテック㈱〕 | <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少について、どういった方が減少しているかなど、内訳や傾向を示すと良い。 ・2060年の将来人口20,000人を目指すのであれば、町の皆さん全員が、この目標を認識するような情報発信をしてみてもどうか。 ・各施策において達成が難しい目標値が多く、行政だけでなく民間も協力してやっていく必要がある。 |
| 大沼委員 〔みな穂農業協同組合〕 | <ul style="list-style-type: none"> ・K P I（重要業績評価指標）の達成状況を見ると、「要努力」という項目が多い。人口減少やコロナ禍の影響などもあり社会的な情勢も変わってきている中、計画の修正が必要な項目もあるのではないかな。 ・人口減少とともに農業者の人口も減少しており、みな穂農協管内の米の生産農家は令和4年から令和5年にかけて71戸減少している。その中においても、農協青壮年部や女性組織の団体も頑張っており、その方々を盛り上げていくための施策を検討してほしい。 ・コロナ禍が明け、イベントなどに人が集まるようになった。人が集まると、ものが動き、お金も動く。農協に限らず、行政や各種団体が協力しながら、人が集まるイベントの企画を検討してみてもどうか。 |
| 本多委員 〔入善町商工会〕 | <ul style="list-style-type: none"> ・工業製品等出荷額については、為替の円安により出荷額が増えている一方、県東部をみると元請けからの発注によることから設備投資が依然として少ない状況である。商業年間商品販売額は、使用期限があるプレミアム商品券の発行により消費喚起を促している。ともに言えることは、企業の経営努力はあるが、外部環境要因の変化によって数値は良くなっている。 ・入善町民で魚津市や富山市で起業・創業している方もおり、町民を対象とした起業・創業件数はもう少しあるのではないかな。 ・企業の防災基盤の強化について、自然災害は止めようがな |

| 委員名 | 内 容 |
|-----------------------------|--|
| | <p>いが、災害を受けたあとの復旧の力が各企業に試されるところである。企業が作成するBCP（事業継続計画）の計画づくりの啓発に努めていきたい。</p> |
| <p>水島委員 〔入善町小中学校長会〕</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年間のコロナ禍で教育現場は大きく様変わりした。1人1台端末やインターネットの利用環境など、ICT活用は大きく前進した。また、学校現場では制約の中でどうすれば子供たちにとってよりよい教育活動になるのかを考えてきたことで、非常に多くの知見を得た。 ・ 5月からはコロナが5類に移行したこともあり、制限は緩和されてきており、学校ではダイナミックな教育活動も展開できている。今後は、コロナ前に戻す部分はもちろん戻すとともに、コロナ禍で培った知見を生かして、より工夫を凝らしながら、柔軟に対応しつつ、より良い学校を目指していきたい。 |
| <p>谷川委員 〔入善町金融協会〕</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境省は地域の脱炭素促進のための交付金を創設するとともに、全国で約100箇所の脱炭素先行地域を設定して、民間事業者の取り組みも含めて重点的に支援をしている。海洋深層水、洋上風力発電など脱炭素の構築に繋がる先進的な取り組みを追い風に、入善町も脱炭素先行地域となって、環境に対する意識の高い企業の誘致に対する呼び水にしていきたい。 ・ 個人のふるさと納税も、企業版のふるさと納税も自治体の財源確保の手段として非常に有効なものである。金融機関でも、顧客のネットワークを生かして企業版ふるさと納税を受け入れている地方自治体と企業の橋渡しを行っている。金融機関を使っていただき、町の取り組みなどを紹介しつつ、寄付企業の開拓に協力できるのではないかと考えている。 |
| <p>村田委員 〔入善女性団体連絡会〕</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 杉沢の沢スギの保全活動は、上青小学校以外の町中の学校にも参加を促してはどうか。 ・ 地域力や地域の絆が低下する中、挨拶運動は地域づくり、まちづくりにつながる重要な活動である。 |
| <p>中村委員 〔入善町商工会青年部〕</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 商工会青年部では、年3回の大きなイベントを通して人の流れをつくることで、入善町を町内外にアピールしている。今後も、試行錯誤しながら魅力的なイベントを開催してい |

| 委員名 | 内 容 |
|-------------------------------|---|
| | <p>きたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、若い消防団員は少なく、さらには、ここ数年で退団する年配の消防団員の方が多くいる。指標値である消防団員の定員充足率は、さらに厳しい状況になるものと予想される。消防団の実際の活動を、中学生や高校生などに周知を図りながら団員の確保に努めてはどうか。 |
| <p>諸石委員 〔JAみな穂青壮年部〕</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・青壮年部としても、新規就農者数を増やせるように、農業の魅力を発信するとともに、イベントに参加しながら農業をアピールしていきたい。 ・県外の方で、入善町で農業がしたいという人がいれば、農地のマッチングができる仕組みがあればいい。 |
| <p>辰尻委員 〔入善町PTA連絡協議会〕</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・英語の勉強が好きと感じる生徒の割合が低く推移している。好きと感じない生徒へのフォローアップや原因の検証を試みてはどうか。 |
| <p>高原委員 〔株北日本新聞社〕</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・住民参加を指標とする施策の達成度が低い状況である。コロナ禍の中でやむを得ないところもあるが、町が抱える課題は、おそらく町民の方も共有されている課題である。町が展開する施策を、いかに住民の方々の賛同・連携を得て展開できるかが大切である。 ・各事業者にとっては、雇用の確保が課題となっており、人材を確保する上で住環境は大きなポイントである。社会動態の社会増の実現を目指すためにも、町内事業者と連携を図りながら、定住促進住宅への入居を促してはどうか。 |
| <p>浦田委員 〔入善町社会福祉協議会〕</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・介護人材の不足について、町内の各事業所、社会福祉法人では、大変厳しい状況が続いている。新卒者が入ってこない状況であり、計画的に人を採用できず、このままでは、サービスが維持できるのか危惧している。新卒者の方が選択肢として、福祉の現場を選んでいただけるような環境を何とか作っていきたい。 ・ひとり親世帯の方々が安心して暮らせるよう、住居と仕事を支援する施策を充実させてほしい。企業の皆さんにも、ぜひ、ひとり親の方を優先して正職員として採用していただきたい。 ・高齢化が進行する中、地域力が低下している。地域における福祉関係者の成り手不足や、高齢者団体の解散など、ど |

| 委員名 | 内 容 |
|-----|--|
| | んどん孤立している。この実情に対して、行政、企業、各種団体が連携しながら地域力の向上を図っていく必要がある。 |